**がん化学療法科 ニュースレター**

# ほほえみ 第98号

明けましておめでとうございます。平成31年、2019年となりました。年末・年始は、やや寒さが厳しかったのですが、皆様お元気に新年を迎えられたでしょうか。昭和生まれからすると、昭和の時代は遠くなるのだなあという思いが強くなる一年のような気がします。今年は、通常の診療に加えて、研究助成をいただいている研究課題とりまとめ・発表を控え、また、新プログラムを立ち上げる予定もしているため、例年に増して、内容の豊富な一年間になりそうです。

## 理性と感情

例年、1月のニュースレターの題材は、普遍的な内容を選ぶことにしていますが、今年は「理性と感情」としてみました。哲学の本を読むと、理性、理想、理念といった言葉が主題になっていることが多く、その一方、感情に関しては、理性を曇らせるもの、非理性的なものという、必ずしも好ましくない要因として捉えられていることが多いようです。

歴史上、理性を最高に持ち上げたのは、イマニュエル・カントでしょう。彼の有名な三批判書のうちの2つは、理性に関わるものです（『純粋理批判』、『実践理性批判』）。カント哲学は理性の集大成といえるものですが、必ずしも万能ではありません。むしろ、理性は万能ではないことを受け入れる形で、カント以降の哲学は再構成されてきたように思います。哲学者ではないので、厳密さに欠けることはお許しいただきたいと思いますが、理性を補うものが必要で、個人的には、それは意思だと思われます。しかも、感情を持った意志、個人の意志と並置された、社会の中での意思が根底に据えられてきていると思います。

だから、意志にこだわり、意思決定に取り組んでいるのですね。現代の意思決定論には、限定合理性、二重過程理論といった理性の制約、制限を織り込んだ概念が数多く出てきます。しかも、これには、生物学的な背景があることが知られるようになっており、ニューロサイエンスの発達した現代は、科学の面でカントより有利な平面に立っていると言えるでしょう。だから、理性の使い方ではカントには遠く及ばないのですが、理性だけではないよ、と言い切れるのだと思っています。

さらに、意志を支える感情、印象や、現象といった、現実との接点となる部分も、より重要に感じるようになっています。これまで、歴史上主流となって来なかったのですが、アダム・スミスの『道徳感情論』や、デイヴィッド・ヒュームの『人間本性論』が重要なのだと感じ、昨年後半に前者を読み、年初から後者を読み始めています。カントは『判断力批判』がまだ読んでいな本でしたが、ヒュームと併せて読むのが良さそうなので、並行して読んでいます。いずれも、読み応えのある（読むのが大変な）ものです。行動経済学やポジティブ心理学は、ここまで難解ではありません。意思決定論は、哲学的というより数学的に難解で、『不確実性下の意思決定理論』は、スミスや、ヒュームに匹敵します。

これらの読書は、登山になぞらえて言うと、岩場が多く、やたら登るのが大変で、木々に囲まれ見通しも効かない、苦しい道のりが続いているところです。しかし、登ってみる山も、これまでよりは、多くはなくなった気もします。百名山と同じで、すべての書物、それを書いた人間の思想の頂に到達することは人為的には不可能かもしれませんが、山に登る力自体が鍛えられてきたのかもしれません。

今年取り組む予定のプログラムも、ポジティブ心理学に関連したもので、現時点でも、一応は新プログラムを行なえるのですが、これだけでは、景色のよい、観光に適した山なのです。

簡単に言うと、深みに欠ける感があり、恐らく、ヒュームを読み進めたあたりまで来て、やんわりと企画を始めることになるだろうと思います。4月辺りに、注目いただければと思います。

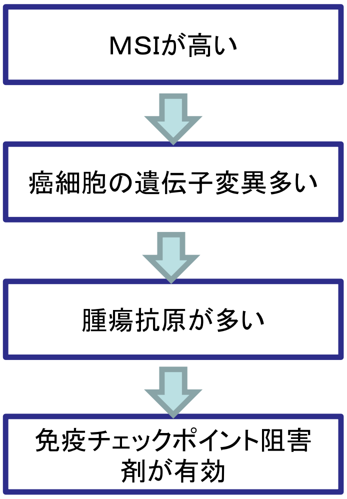
デイヴィッド・ヒューム
（wikipedia より引用）

**ペンブロリズマブの承認**

昨年末になって、免疫チェックポイント阻害剤であるペンブロリズマブが承認されました。この薬剤の承認条件は、がん化学療法後に増悪した進行・再発のMSI-Highを有する固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）というものです。通常の承認のように、胃癌とか肺癌といった原発巣の診断によるものではありません。

MSIという言葉が出てきていますが、マイクロサテライト不安定性を表すもので、遺伝子変異の起こりやすさ指標となっています。この薬剤に限っては、遺伝子変異が起こりやすい癌でのみ、有効性が示されることもあり、必須の条件となっています。MSIを測定するためには、特殊な検査が必要となっています。

また、標準的な治療が困難な場合に限定されていますので、通常のがん薬物療法を行い、その後に使用条件が揃う方に限定されるものです。また、特有の副作用も有するため、使用できる方でも、経過観察が頻繁に必要になると思われます。




**つるばらの剪定**

12月、1月は、ロザリアン（バラを育てる人）にとって、一年のうちで最も重要なシーズンです。それは、つるバラの剪定、誘引という作業があるからです。バラが開花したときに、「世話が大変でしょう」と、よく言われるのですが、咲いているときは、バラの力で咲くので、人為的な要素はありません。

つるバラの能力を生かすには、枝の剪定、更新が不可欠なのですが、それを決めるのは真冬の作業です。枝を見極め、どの枝を何処に持っていくかによって、結果が大きく変わりますし、全ての枝を残せば良いわけではなく、バラの成長を見込んだ判断になります。

毎年、試行錯誤ですが、剪定前後で右のようになります。
６月にどのような姿となっているでしょうか。

剪定前

剪定後

つるバラ　リパブリック・ド・モンマルトル

**MEMO**　　<u>1月のがん化学療法科の予定</u>

| | |
|---|---|
| 1月1日 | 元日 |
| 1月8日 | 診療応援（工藤先生） |
| 1月14日 | 成人の日 |
| 1月15日 | 診療応援（平出先生） |
| 1月22日 | 診療応援（工藤先生） |
| 1月29日 | 診療応援（平出先生） |

美味しい、おせち料理を召し上がられましたか

掲載記事の無断転載を禁じます